

**新潟医療センターニュース**

第 11 号

発行  
JA新潟厚生連  
新潟医療センター  
発行責任者  
田 中 憲 一

先月号で、小児科が毎週木曜日十九時までの予約制のイブニング外来開始記事を掲載いたしました。今月はイブニング外来を担当される高見先生より医療講話として、アレルギーの病気についてお話をお聞きします。

**近年のアレルギーについて**

昨今少子化の世の中ですが、アレルギーの病気で小児科を受診する子供達はまだまだ多い印象があります。子供のアレルギーの病気としては主に気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性

皮膚炎、アレルギー性鼻炎があげられます。最近の調査では、全国の小学生から高校生で百人当たり、喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎は五人前後、アレルギー性鼻炎は約十二人もいることがわかりました。子供の病気としては多い方であり、過去の同じような調査と比べて増えてきています。

**医療講話**

**子供のアレルギーの病気  
小児科部長 高見 暁**

**身近なアレルギー**



優しい笑顔の高見先生

このようにアレルギーは身近な病気ですが、その原因は未だによくわかっていません。アレルギーの病気を引き起こしやすい体質をアトピー体質と言いますが、家族でその体質を受け継いでいく場合もありますし、生まれてからの環境の影響でアトピー体質となることもあるようです。アトピー体質があっても全てのアレルギーの病気になるわけではなく、また子供の時にいったん治ったアレルギーの病気が、大人になってから再発することもあります。

**アレルギーの最新対応**

アレルギーの病気を完全に治すのは難しいのですが、症状の治療方法や対処の考え方は以前よりかなり良い方向に変わってきています。喘息では、長期的に使用するロイコトリエン受容体拮抗薬や吸入ステロイド薬が有効で安全性も高く、それらを治療ガイドラインに基づいて使用することにより、呼吸が苦しくなる喘息発作で入院する子供の数は激減しました。喘息があってもオリンピックやプロスポーツで活躍できる時代になっています。食物アレ

ルギーでは、以前は、原因となった食物をその後ずっと食べてはいけないとか、アレルギーの血液検査で陽性になった食物は全て止めるといった指導が行われてきました。現在は症状が出ない量を見極めて食べられるところまでは食べるという指導が中心であり、また

**病院祭のご案内**

**あなたの健康サポートします  
いきいき寄席で元気もりもり**

新潟医療センターとして生まれ変わり、七回目の秋を迎えようとしております。地域に根ざした病院をめざし、これまでの診療科に加え、産科・消化器病センター・病理センター等を開設しました。受付・薬局を中心とした棟を増築し、大型機器も様々導入され、医師充足も県内で飛び抜けた数を誇っております。

昨春秋、健康を考える憩いの場としての位置づけを明確にし、地域の皆さんに、当院の診療機能を知って頂く為の「病院祭」を開催いたしました。初めての試みで、どのように病院祭が地域の皆さんに受け入れられるのかわかりませんが、会場が溢れんばかりの来院者で埋め尽くされホッと胸をなでたおりました。

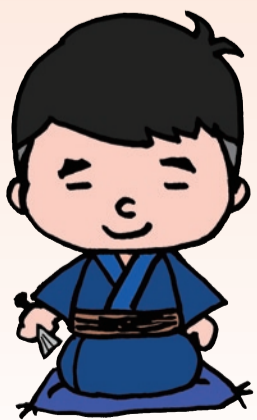
今年も十月二十五日(日)に病院祭を開催いたします。昨年は、新たな診療機能を紹介する事を「コンセプト」、青柳消化器病センター長、内藤病理センター長の講演を企画し、大勢の方々に集まって頂きました。今年は、病院祭のテーマを「深めよう、地域と医療の絆」あなたの健康をサポートします」とし、地域の皆さんに楽しんで頂くながら、健康について考えて頂く

様々な企画を進めております。今年のメイン企画は、健康を題材にした「いきいき寄席」です。落語家、立川流立川志らくの弟子、新潟市西区出身の「立川らくまん」に口演頂く事となりました。

その他、健康サポートパネルディスカッションとして、「心不全」を取り上げます。当院の心臓リハビリテーションスタッフ(循環器内科部長 樋口浩太郎・歯科部長 道見登・理学療法士・薬剤師・看護師・管理栄養士)を中心に、皆さんと会話のキャッチボールを通して知識を深めていけたらと考えております。

各診療機能紹介ブース、健康チエックコーナー、模擬店、未使用品バザー、ふれあいステージ等、楽しい企画が盛りだくさんですので、ご期待ください。詳細は、院内に貼りだされるポスターや新潟日報に織り込まれるチラシ等をご覧ください。

副実行委員長 大橋 利弘



立川らくまん

(裏面もご覧ください)

# こぼり園 盆踊り会

新潟医療センターに隣接するこぼり園では、月に一度のお誕生日会と各季節に合わせたお楽しみ会等の行事を開催しています。各行事では、地域のボランティアの方々にご参加して頂いています。民謡やフラダンスなど、さまざまな活動をされている方々の来園は、ご利用者さんの楽しみとなっております。

八月六日には、こぼり園での

盆踊り会が開催されました。ボランティアに、「かつみ会」の皆様にご参加して頂き、盆踊り会を大いに盛り上げて頂きました。勢いのある三味線、響きわたる太鼓、素晴らしい民謡と一緒に踊りたくなるような盆踊りを見て、ご利用者さんもリズムを取って手を叩いていたり、民謡と一緒に歌ったりと楽しませていた様子でした。

来年も再来年も、ご利用者さんが健康に過ごされて、また盆踊り会を楽しんで頂ければと思います。

こぼり園 植草翔太郎



楽しそうに過ごす利用者さんの様子

## 赤ちゃんギャラリーの紹介

あどけない笑顔に癒されます！



当院が、まだ『こぼり病院』だった頃、この地域のお産を担う病院のひとつであり、分娩数の減少など処々の理由から一旦閉鎖したと聞いています。近年、産科の激減が社会問題となる中、地域に根ざした病院作りを目指す『新潟医療センター』として、平成二十五年七月からお産の取り扱いを再開しました。現在は、一名の常勤女性医師を中心とし、田中病院長のサポートを受けながら診療を担当しています。

今でも、「ここでお産ができるようになったんですか?」と患者さんから尋ねられることが多く、まだまだ知名度は低いのですが、現在月七、十人の赤ちゃんが誕生しています。

分娩を取り扱うA3病棟では、お産後のママをサポートする中で、なかなか病院に來れないご家族のために、赤ちゃんのお誕生や沐浴(お風呂)など様々なシーンを写真に収めております。それらをアルバムとして作成し、退院後の皆さんにプレゼントしています。とても好評を頂いており、「もっと地域の方に知ってもらったほうが良いのでは」とアドバイスも頂きます。当院でお産頂いた皆さんのご理解を頂きながら、赤ちゃんギャラリーを作ることにしました。

七月より、産婦人科外来の前、A棟エレベーター脇に飾らせて頂いており、足を止めてご覧になる方も増えていきます。皆さんも病院にお越しの際は、是非ギャラリーを見て頂けたら幸いです。

産科看護部長 玉木浩子

## 病院探索

着任した先生方を紹介します



呼吸器内科部長 栗山 英之

七月一日に着任しました呼吸器内科の栗山英之と申します。呼吸器内科は、気管、気管支、肺、胸膜など呼吸に関係した病気を担当しています。肺は、空気を介して外の世界と通じており、また、

血液を介して身体の中と通じているため、様々な病気が生じてきます。地域医療に貢献すべく、微力ながら努力して参りますので、宜しく御願致します。



研修医 勝見 達也



研修医 越 智通

七月十三日に新潟医歯学総合病院から来ました研修医一年目の勝見達也です。新潟医療センターでは十ヶ月間お世話になります。新潟医療センターでの研修を通じ、新潟での医療に少しでも貢献できたらと考えております。

七月から当院の研修医となりました越智通です。四月から新潟大学医歯学総合病院で三ヶ月研修をしまして、当院にまいりました。まだ慣れない点も多いですが、地域の皆様の医療に貢献できるように頑張っていきたいと思います。

## 編集後記

新発田市街地から約二十キロメートル、大自然に囲まれた瀧谷森林公園に二泊三日でキャンプに行ってきた。公園の横には加治川が流れ、川遊びや釣りも楽しめます。夜には蛍が舞い、満天の星の下、澄み切った空気の中で思い切りフレッシュして来ました。九月は陰暦で長月。秋の夜長を楽しむ季節になりました。是非一度足を運んではいかがでしょうか。



(記事・小坂)